

第38回  
MASセミナー

「車から人へ、未来の道とは」

日時：2024/07/20(土)

講演：14:00~16:00

パリを筆頭に、「ウォークブル・シティ」と呼ばれる徒歩15分圏内の街づくりに関心が高い。移動手段が公共交通と徒歩に変わり、バルセロナでは30年間で車が減り道路面積70%を人に開放した。街路に緑と安全な場が存在する。車社会がもたらす弊害は、地球には気候変動、人には運動不足と健康被害をもたらしたが、それを解決する街づくりがある。未来の道はどうあるべきか、考えてみよう。

「道具」の進化が街を変える」

1

車社会から人中心の社会への転換は現代の大課題だが、焦点は「人と車が共存する街路は、どんな配慮が必要か」で、車社会で見落とされた問題を探し街路の在り方を模索することです。大都市と地方の人口減の街では「徒歩15分圏内で必要なサービスが受けられる街づくり」は同じでいいのか。一方、どちらも車が亡くなるとは思えず、それはミニカー、自転車、電動車椅子やスケーターのような「道具」の進化と関わってくると思います。そこに街路の在り方が変わりそうです。

大倉富美雄



「住民と一緒に道、まちを考える」

2

住民参加のまちづくりの場面では、専門家は住民と同じ目の高さで一緒に考えることが求められます。住民が主体であり、専門家は情報提供とアドバイスというファシリテーターの役割です。赤坂でタカラ（良い点）とアラ（課題）の街歩きワークショップをした時に、ガードレールが話題になりました。ガードレールは安全、でも道の両側から行き来ができない、車のための道路？人のための道？の事例も含め、ご紹介したいと思っています。

連 健夫



鎌倉の通学路一段葛一

3

私事ですが小中学校の9年間、鎌倉鶴岡八幡への参道である段葛が通学路でした。両側の車道から45cmほど高い長い道です。八幡宮側が狭く海側が広くと幅が次第に変化します。両脇の桜並木は小さなサクランボ取りもした思い出の道です。鎌倉はオーバーツーリズムで問題になっていますが、ここだけは歩く以外の用途がないため楽に散策できます（しわ寄せで両脇の通りは人の洪水です）。考える視点を少し変えた未来の道への一考です。

村上晶子

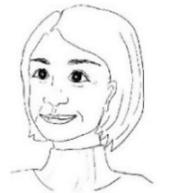


「街の魅力・今昔を超えて」

4

魅力的な街は、歩く人にとって、目に優しい風景と発見を与えてくれる。伝統的な建築群が残る街並み、京都の先斗町や金沢の茶屋街、郡上八幡や川越壱番街など、古いものと商店がまじりあい共存する町は街歩きの喜びを与えてくれる。同時に、街の魅力はその街に暮らす人と生業が一体になっていることが重要である気がする。車社会が生み出した大規模商業施設やイオンモールとは似て非なるまち歩きの魅力について考えてみたい。

田口知子



「プラチナ通り in 港区」

5

現代の社会を単純に人か車かと言う二元論的な思考で捉えるだけでは、新しい社会は見えて来ない。これからの社会を考える時には、重ね合わせ的な思考が必要になって来るだろう。人が歩いて心地よく、そして車で走っても楽しい道・・・そんな道が、港区には存在する。白金台を走るプラチナ通りである。2019年・2020年に事業認可され、現在、工事が進む環状第4号線事業だが、未来の社会に向けて一度立ち止まって考えたら良い産が！

武田有左



人・車・周辺環境のバランスに目を向けたい

6

日本での人と車の関係は高度成長時代を經過して現在はある安定した状況と見える。一方で街中に見られる24hパーキングPは便利であるが、その環境については無作為と言わざるを得ない。世間を騒がせたあの中古車センターが公共の街路樹まで伐採して、自らの利益を目指したのには呆れるが、気になるのは、こういった事に対する市民の目である。私物である自身の車は磨き立てるがその周辺の環境については無頓着で、その点、ヨーロッパの都市部との在り方は歴然とした違いを感じるの残念である。

今井 均



「路面と段差」

7

「ウォークブルな街」吉祥寺を歩いてみた。表通りから一步裏道に入ると楽しい街路が広がる。その街路は段差なくどこまでも自由に歩ける。歩車道分離の段差をなくし、交差点や道の「中心に人」がいる。安全性は舗装面の仕上げを変えることで「歩行者優先ですよ」というサインを出す。石畳、タイル、インターロッキングなどアスファルトではない街路は安全の象徴。重要な基本条件だが改善には「行政」のハードル(段差)は高い。

宮田多津夫



ラドバーンの歩車分離

司会進行



ラドバーンは街路設計上有名な事例で、1920年代に計画が始まり世界中で見習ったもの。我が国でも、千里ニュータウンなど類例は多い。道路を袋小路(クルドサク)として通過交通を防いでいる。

湯本長伯

